

Q. 連携できる団体を知りたい。

A. 日本の伝統・文化理解教育、キャリア教育、食育、環境教育、安全教育等の学習で連携できる「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」に登録している団体をいくつか御紹介します。詳しくは「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会 HP」を御覧ください。

<団体名> 社団法人 日本芸能実演家団体協議会

<プログラム> 「実演家と教師による和楽器モデル授業出前教室」

<団体紹介> 俳優、歌手、演奏家、舞踊家、演芸家、演出家、舞台監督をはじめとする実演家等の団体で構成する民間の公益法人で、略称を芸団協といいます。芸術文化の発展に寄与することを目的に1965年に設立されました。学校教育にかかわる事業として、日本財団の助成を得て、主に能楽、長唄、三曲のジャンルの実演家の協力のもと、中学校での和楽器を活用した音楽の授業への支援を行っています。その際に、コーディネーターを介して、教員と実演家とがそれぞれの専門力を活かしながら「学び合う」関係がつかれるよう、事前・事後指導まで含めて、全体のプランニングや流れを組み立て、授業を展開しています。そのための教員向け実技研修会等も行っています。また今年度から都教委の委託を受けて、小学校や高校でも「出前授業」を行っています。

<実践事例> 千代田区麹町小学校の例

6年生の音楽の授業の一環で、能楽師の方を招き、能楽の学習を行いました。あいさつから始まり、能楽の動き方や能面の説明とともに、実際に足袋を履いて歩き方を練習したり泣き方などの動きをしてみたり、扇子を刀に見立てた動きをしたりするなどの体験もしました。子どもたちは真剣に取り組み、2時間の授業でしたが、動きもどんどん上達しました。



あいさつから始まり、あいさつで終わる。(上)
扇子の開き方(左)や歩き方・動き方(右)を学ぶ

<連絡先> 社団法人 日本芸能実演家団体協議会

TEL 芸能文化振興部 03-5909-3060 E-mail dento-kyoiku@geidankyo.or.jp

URL <http://www.geidankyo.or.jp>

<団体名> NPOカタリバ

<プログラム> 「カタリ場」(大学生などによるキャリアガイダンス)

<団体紹介> 親でもなく先生でもない、高校生よりちょっと年上のスタッフと語り合う授業を行っているNPOです。スタッフは大学生や若手社会人が中心で、800人近くが登録しています。スタッフが、自分の高校時代から現在までの間の体験談や思いを話したり、反対に1~2人の生徒と対話形式で話を聞いたりします。その中から、高校生の本音を引き出し、自分の将来を考えたり今できることに気付いたりすることをサポートする活動をしています。高校の授業枠を中心に活動していますが、中学校でも実践した例もあります。

<実践事例> 都立足立東高校の例

生徒は自分が興味を持ったサンプリングコーナーもしくは相談コーナーへ行きます。サンプリングコーナーでは、スタッフを囲んで座り、スタッフが自分の体験や思いを話していました。まわりに集まった生徒は興味津々で話を聞いていました。

相談コーナーでは、生徒1~2人とスタッフ1人で話を深めていました。生徒の今の悩みや思いを受け止めながら、スタッフが生徒の可能性を引き出していました。どこへ行こうか迷っている生徒にはポンプ役というスタッフが積極的に話しかけ、その場で相談にのったり、コーナーへ連れて行ったりするなど場を盛り上げていました。

話を聞くだけに終わらずに、最後に「今日からできる約束」を書かせ、どんなことでもいいから自分の夢に一步踏み出すきっかけをつくっていました。



はじめにスタッフと打ち解ける



サンプリングコーナーでは
スタッフが体験談を語る



相談コーナーでは生徒の思いを引き出す

<連絡先> NPOカタリバ

TEL 03-5770-4025

FAX 020-4665-3239

E-mail hello@katariba.net

URL <http://www.katariba.net/>

<団体名> ファイブ・ア・デイ協会(5 A DAY)

<プログラム> 「5 A DAY食育プログラム食育体験ツアー」

<団体紹介> 欧米諸国で大きな実績のある「5 A DAY(ファイブ・ア・デイ)」運動の成果を受けて、日本でも2002年に協会を設立しました。「1日5皿分以上の野菜と、200g以上の果物を食べましょう」をスローガンに、食育プログラムを通して、小学生に野菜・果物の摂取を啓発し、国民の健康増進に貢献しようということを目的にしています。農林水産省など国の機関や教育機関、民間企業が協力し合って運動を進めています。学習で使えるCD-ROM「5 A DAYアドベンチャー」や協会会員であるスーパーマーケットの店舗で行う「食育体験ツアー」、野菜の産地へ行って実際に体験する「収穫体験ツアー」等のプログラムがあります。

<実践事例> 杉並区立東田小学校の例

東田小学校近くの5 A DAY協会会員スーパーマーケットサミット成田東店で、1年生の給食指導の一環として食育体験ツアーが行われました。

はじめに食育インストラクターから食品や野菜のはたらきについて詳しく学びました。その後、実際にスーパーの青果売り場で、食育体験ツアーを行いました。「赤い野菜を買う」など4つの指令をもとに、グループで楽しく買い物をしました。買ったものはしっかりレジで精算します。買い物の後は指令の答え合わせやクイズをしました。最後に子どもたちから「楽しかったです。」とか「勉強になりました。」などの感想がたくさん出ました。

今回は1年生だったので学校までの往復時間などを考慮して実施しませんでした。上の学年では、学年に応じたサラダ作りもプログラムに入ります。



野菜について楽しく学ぶ



指令を受けて友達と買い物



食育インストラクターの
ヒントをもとに野菜を探す



買った野菜はちゃんと
レジで精算する

<連絡先> ファイブ・ア・デイ(5 A DAY)広報事務局

TEL 03-3234-1050

E-mail info@5aday.net URL <http://www.5aday.net>

<団体名> 社団法人 日本環境教育フォーラム

<プログラム> 「環境教育体験プログラム」

<団体紹介> 日本にもっと自然学校をつくりたいという人たちが集まって行われた「清里環境教育フォーラム」(1987年)から始まり、次第にネットワークを広げ、1997年に環境省所管の現在の組織となりました。「環境教育の推進」「自然学校の普及」「途上国の環境教育支援」を柱に様々な活動をしています。また環境教育に取り組む全国の学校と、社会貢献を目指す企業やNPOをつなぐコーディネーターとなり、学校教育のお手伝いをしています。

<連絡先> 社団法人日本環境教育フォーラム
TEL 03-3350-6770 Email info@jeef.or.jp
URL <http://www.jeef.or.jp>



エコプロダクツ2005では、あいあい損害保険株式会社と共催で「つなげよう！学校と環境教育～学校の体験型環境教育をどうすすめるか～」と題し、スクール・エコ・フォーラムを行いました。その中で企業やNPO等と連携するこれからの学校の環境教育の在り方について議論しました。

<団体名> 社団法人 経済同友会

<プログラム> 「学校と企業・経営者の交流活動」 (ゲスト講師派遣プログラム)

<団体紹介> 企業経営者が個人として参加し、一企業や特定業種の利害を超えた幅広い先見的な視野から、よりよい経済社会の実現、国民生活の充実のための諸課題に率先して取り組んでいます。教育分野では企業経営者が教育現場へ積極的に参画し、子どもたちの職業観を育てる機会等を提供しようと、「学校と企業・経営者の交流活動」を1999年度から推進しています。これは、経済同友会会員の企業経営者を、中学校や高校での出前授業、教員の研修会やPTA会合での講演などの活動のために、講師として紹介するプログラムです。現在は70名以上の経営者が登録しています。

<連絡先> 経済同友会「学校と企業・経営者の交流活動」
E-mail koryu@doyukai.or.jp
URL <http://www.doyukai.or.jp/kyoiku/index.html>



郡内中学校での道徳授業地区公開講座で、北城格太郎氏(経済同友会代表幹事・日本アイ・ビー・エム取締役会長)が「働くということ」をテーマにして講演しました。自らの経験をもとにして、子どもたちに働くことの意味や楽しさを分かりやすく伝えました。